

帳票類処理をデジタル化 現場管理業務の一層効率化へ

清水建設

清水建設は、日本国内

で10月以後に新規着工する現場を対象に、作業員の入退場管理ならびに作業日報や工事日誌、作業指示書、安全環境日誌など、現場で日々大量に発生する帳票類の処理をデジタル化し、現場管理業務の一層の効率化を図る。一連のデジタル化には、MCDPデータプラス(MCDP)社のサービスを活用する。同社がMCDP社に提供した現場運営ノウハウが反映されたシステムになっており、業界内に広く普及すること

が期待される。

デジタル化によって、作業日報と作業指示書だけを例にとっても、1〜2年のうちに少なくとも見積もっても年間でA4用紙換算で約1000万枚、処理時間になると2万時間以上の削減が可能となる。また、現場勤務者にも時間や場所を問わない多様な働き方をもたらす可能性があり、コロナ下では、デジタル化による対面業務の機会減少は感染防止にも寄与する。スケジュールは、10月から作業員の入退場(出

面)管理を先行してデジタル化する。MCDP社

提供の労務・安全衛生に関する帳票管理サービス「グリーンサイト」の付属機能である通門管理システムを活用する。これにより、グリーンサイトに登録されている作業員情報に紐付けされたQRコードを活用し、個々の作業員の入退場時間・入場日数等の就労履歴を管理する。作業員は、個々に付与されるQRコードを入退場ゲートの読取機にかざすだけで、就労履歴データが蓄積されていく。

続いて、来年1月から、

帳票類のデジタル化を順次実施する。MCDP社提供の作業間連絡調整サービス「ワークサイト」を活用し、デジタル化済みの帳票類の作成業務に加え、承認業務までデジタル化する。これにより、印刷した紙ベースでの承認業務がなくなり、ペーパーレス化が一挙に進むことになる。

履歴と作業日報のデータ

を連携させると、協力会社の出面の集計・請求や同社の承認、さらには有能技能者に対する手当の請求・承認等の業務を瞬時に処理できる。また、工事日誌に記録された工事内容(出来高)と就労履歴データから得られる人工(工事の実施人数)を連携させると、個々の技能者(職長等)の適正な評価など、技能者一人ひとりに目を向けた管理まで可能となる。

また、MCDP社提供

の各種クラウドサービスのフル活用は、協力会社が自社の作業員情報をグリーンサイトに登録することが前提となる。一方、グリーンサイトは、「建設キャリアアップシステム(CCUS)」と連携しており、両方に登録さ

れ、紐づけされている作業員は、通門管理システムに記録される就労履歴がCCUSに転送されるため、同社は協力会社に対して、両サービスへの未登録作業員の情報登録を要請する。CCUSへの登録が進むと、作業員の公的資格や社会保険加入状況、現場の就労履歴、建設業退職金計算等の管理業務も効率化する。

同社は、協力会社と連携し、早期にグリーンサイトとワークサイトの全現場への展開を図るとともに、引き続き、生産性向上に向けた現場管理業務のデジタル化を推進して、作業員のキャリアのフォローや処遇改善など、担い手の確保・育成のために諸データを活用していくことを計画している。